

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
協	キョウ かなう								
叶	キョウ かない かなう								
協									
卒	ソツ おわる ついに にわか								
卒									
卓	タク								
卑	ヒ いやしい いやしむ いやしめる								
卑	ヒ いやしい いやしむ いやしめる ひくい								

【協】説文に「叶」と「日十」の字体があるが、或体と古文が大徐本と段注本で逆。似た意味の字に「協」がある。大徐本では「協」を「眾之同和也」とし、「協」を「同心之和」とする。五経文字では「協」を説とはせず、「心部亦有協字与此同並訓和案」としている。

【卒】南北朝期に「卒」から異体字の「卒」ができる過程がよくわかる。
【卓】石門頌では伸ばす線がまだ1本に統一されていない。
【卑】金文では「田+支」だが、大徐では「甲+又」になっている。「支」の上部を「田」と合体させて「甲」にしてし

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												協 現代中国
												叶 現代中国
												卒 現代中国
												卒 江戸五経(説)
												卒 江戸五経(説)
												卓 現代中国
												卑 現代中国

まったのだろう。「甲」に角がついているが、大徐では「甲」単体の字にも角がついているので、これは字画ではなく大徐の様式なのかもしれない。この角を字画として書いたものは大徐以降もなかったが、字画として解釈したものが康熙字典の字体に採用されている。九経字様は「甲+又」としている

が甲の下部の縦線をまっすぐに書いている。これは大徐篆文と見比べるとおかしな解釈だともう。大徐篆文を正字の根拠とするなら、正字は常用漢字の「卑」ではなく、人名用漢字の「卑」の方だろう。中国常用も「卑」を採用している。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期					
単	タン ひとえ		睡虎地秦簡	馬王堆	鮮于璠碑陰	十七帖	元珍墓誌	温彦博碑	江戸干祿	法華義疏				
單	人②		子卯庫楚帛	馬王堆			鄭道祖天社山	永嘉公主墓誌		王勃詩序				
			郭店楚簡							杜家立成				
南	ナン なみなみ		睡虎地秦簡	馬王堆	武威漢簡	澄清堂帖	集字聖教序	鄭長祿造像	九成宮	五經・序	王勃詩序			
			包山楚簡	大徐古文	馬王堆	新居延漢簡		鄭義下碑						
			散氏盤	段注・米部	敦煌漢簡									
			大孟鼎		敦煌漢簡									
					敦煌漢簡									
卑	ヒ いやしい いやしむ いやしめる ひくい		侯馬盟書	郭店楚簡	大徐・ナ部	馬王堆	石門頌	智永千字文	黃庭經	元彦墓誌	孔子廟堂碑	九經・雜辨部	王勃詩序	
卑	人③		侯馬盟書			馬王堆	王舍人碑		楊波楊後一墓誌				鄭晉指歸	
			侯馬盟書				尹宙碑							
博	ハク バク ひろい ひろめる		金文	金文	金文	大徐・十部	馬王堆	西狹頌	書譜	集字聖教序	鄭義下碑	伊闕仏窟碑	干祿字書	王勃詩序

【卑】金文では「田+支」だが、大徐本では「甲+又」になっている。「支」の上部を「田」と合体させて「甲」にしてしまったのだろう。「甲」に角がついているが、大徐では「甲」単体の字にも角がついているので、これは字画ではなく大徐の様式なのかもしれない。この角を字画として書いたものは

説文以降もなかったが、字画として解釈したものが康熙字典の字体に採用されている。九經字様は「甲+又」としているが甲の下部の縦線をまっすぐに書いている。これは大徐篆文と見比べるとおかしな解釈だとおもう。説文を正字の根拠とするなら、正字は常用漢字の「卑」ではなく、人名用漢字の

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
單	單	單	單	單			單	單	單	單	單	單	單
色紙法華經卷 商先往來		口9								x		江戸干祿(俗)	現代中国
單	單		單	單									
色紙法華經卷 書札重宝記													
單													
藤原定家													
南	南	南	南	南			南	南	南	南	南	南	南
精養本朗詠 節用		十7											現代中国
南	南												
元永本古今 再版農業全書													
南	南												
元永本古今													
卑	卑	卑	卑	卑			卑	卑	卑	卑	卑	卑	卑
藤原朝隆 謙身往來		十6									x		江戸九經(詠)
卑	卑												
佚名白詩 節用													
博	博	博	博	博			博	博	博	博	博	博	博
花園天皇 謙身往來		十10									x		干祿(通)
博	博												
後家 純消息往來													江戸五經

「卑」の方だろう。中国常用も「卑」を採用している。

【博】右上の点はつけないことの方が多いようだ。大徐篆文を見ても、どうしても点をつけないければならない字体には見えない。干祿字書の字体を五經文字で訂正している。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
卜	ボク うらない うらなう ほくの と								
占	セン うらなう しめめる うらなひ								
卦	ケカ うらかた								
卯	ボウ う								
卯									
印	イン しるし								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

【印】行書の偏は横線2本を書き「レ」を書くのが一般的な筆順。したがって偏の縦線は下に突き抜けないし3画。康熙字典、文部省活字、当用漢字表は偏の縦線が下に出ているが、当用漢字字体表では出ているとも出ていないともいえるような微妙な形。一画目は左から右に書く。平安以降は各なし点をつけることが多い。